科目ナンバリング	U-LAS55 10002 SB31				
授業科目名 <英訳>	海外実地セミナー:変容する東南アジアー環境・生業・社会と持続的発展 Overseas Field Seminars :Changing Southeast Asia - Environment, Livelihood, Society and Sustainable Development	担当者所属 職名・氏名	農学研究科　教授　　樋口　浩和 農学研究科　教授　　上髙原　浩		
群	キャリア形成科目群	分野(分類)	多文化理解	使用言語	日本語及び英語
旧群		単位数	2単位	時間数	30時間	授業形態	ゼミナール（対面授業科目）
開講年度・ 開講期	2026・ 前期集中	曜時限	集中 未定	配当学年	全回生	対象学生	全学向

[授業の概要・目的]

近年、変貌の著しい東南アジアの環境・生業・社会・文化を理解するために、協定大学であるタイ・バンコクのカセサート大学を中心に、北部の山岳少数民族の村や森、東部丘陵の農業地帯やマングローブ林にて9月初旬に２週間弱の臨地研修を行う。熱帯の農業や自然の現状を理解するとともに、生業と地域社会や経済、文化などの関わりについて学ぶ。

[到達目標]

現地研修に参加するとともに農業や環境に関する種々の講義を受けることにより、熱帯地域の農業・環境問題を認識し、その変化と現状について深く理解できるようになる。また、タイの社会・文化に関する講義と、文化施設の訪問、学生相互の国際交流により、異文化社会について理解する能力を養う。英語での講義、英語での成果発表を行うことにより、実用的な英語の運用能力が高まる。

[授業計画と内容]

夏季休暇期間にバンコク周辺およびタイ東部、チェンマイおよび周辺地域での臨地研修（9月初旬の2週間弱を予定）と、その前に安全管理に関する講義を含む集中講義を行う。現地では、本学の協定大学であるカセサート大学の講師陣の講義を受け、また、農地、森林、文化施設等を訪問し、熱帯地域の農業および環境問題を中心に、東南アジアについての総合的理解を深める。タイへの渡航費、滞在費は自己負担となる。

(日本国内での講義)
１．海外渡航時の安全管理、人々との接し方、海外渡航と健康、タイ語の挨拶
２．海外渡航時の連絡方法の確認
３．タイの自然・社会・経済環境・文化・歴史の概況

臨地研修の日程と内容
1日目： 移動（関西空港→バンコク）、カセサート大学でのオリエンテーション
2日目： 講義（カセサート大学の歴史・現況・社会での役割、タイの自然と農業）
　　： 移動（バンコク→チェンマイ）
3日目： 講義（山地部の農業と環境問題）、少数民族（モン）村落での見学、同村長への聞き取り調査、文化施設見学
4日目： 移動（チェンマイ→インタノーン国立公園）
　　： 講義（熱帯山地生態系、森林利用、湿地生態系、社会変化と森林資源管理）
　　： 移動（インタノーン国立公園→メーチェム）
5日目： 講義（山地低地部及び山斜面の農業と環境問題、山地部の社会変化と農業環境問題）、少数民族（カレン）村落での見学、同村長への聞き取り調査

海外実地セミナー :変容する東南アジアー環境・生業・社会と持続的発展(2)へ続く↓↓↓

6日目： 移動（メーチェム→オプルアング国立公園）
：講義（森林利用、先史遺跡と地質）
：移動（オプルアング国立公園→チェンマイ→バンコク）
7日目： アユタヤ史跡公園での講義（アユタヤ時代の歴史、文化）と史跡公園見学
8日目： 移動（バンコク→パトゥムタニ）
：講義（ココヤシ園を例にデルタの土地利用と農業様式、環境問題）
：移動（パトゥムタニ→チャチェンサオ）
：講義（内陸エビ養殖と環境問題）、エビ養殖業者への聞き取り調査
：移動（チャチェンサオ→サケラート環境研究所）
：講義（熱帯林植生と動物多様性）
9日目： 講義（熱帯林植生と植物多様性）、落葉フタバガキ林と乾燥常緑林の見学
：移動（サケラート環境研究所→チャンタブリ）
10日目： 講義（クンカベーンマングローブ林教育センターで森林保全と環境政策）
：移動（マングローブ林教育センター→チャンタブリ市郊外）
：講義（リモートセンシング、画像解析、自動化技術の応用）熱帯果樹園　モンスーン熱帯の園芸農業と生産技術の最適化
11日目： 講義（熱帯園芸の発展と課題）、チャンタブリ園芸研究所、実験圃場見学
：移動（チャンタブリ→チョンブリ）
：講義（環境・食糧・農業問題と先端農業技術）クボタファーム
：移動（チョンブリ→バンコク）
12日目： 成果発表会
13日目： 移動（バンコク→関西空港）
（コメント）　受講者は、5月に行われる説明会に必ず出席すること。説明会の日時・場所は別途掲示する。研修旅行ならびに研修前の講義は、夏季休業期間中に行う。伝染病・自然災害・政情など研修先の事情により臨地研修ができないことがありうる。その場合、国内での集中講義に振り替わることがあるが、支払った費用の一部は戻らないことがある。

[履修要件]

①履修定員：14名（最小遂行人数：8名）
②説明会について：受講希望者は、5月頃（予定）に行われる説明会に出席のうえ、説明会で配付される応募書類を期日までに提出すること。
③選考方法について：受講者については、「志望理由」等に基づき総合的に選考を行う。
④履修取消について：本科目は履修取消対象外の科目となるため、履修登録確定後の取消はできない。

旅行費用は自己負担。必要な金額については説明会で周知する。旅行費用のおもなものは、往復航空券代と現地交通費、宿泊費、食費である。航空券代は世界情勢を受けて変動が激しく予測が難しいものの、現地交通費と宿泊費と食費は国内よりも安価である。本人および保護者が自己責任の原則を了承の上、必要な保険等をかけること、海外滞在リスクを十分認識し自らを律することができること。また、6月に予定されているタイ側から来日する交換留学生の受入行事への参加を推奨する。

安全講習の受講、学研災付帯海外留学保険への加入が確認できない学生は、海外セミナーに参加することはできない。参加希望学生は、事前説明会の後、簡単な志望理由書を提出すること。希望者が多い場合は1，2回生を優先することがある。

海外実地セミナー :変容する東南アジアー環境・生業・社会と持続的発展(3)へ続く↓↓↓

海外実地セミナー :変容する東南アジア―環境・生業・社会と持続的発展(3)

[成績評価の方法・観点]

実地研修への参加状況と取り組み姿勢（40%）、現地での成果発表会での発表内容（30%）、および帰国後提出のレポートの内容（30%）により評価する。成績評価の詳細は事前講義で説明する。

[教科書]

使用しない
授業中にプリントを配布する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

事前講義の内容を十分に理解、復習し、現地研修での準備を入念に行うこと。

[その他（オフィスアワー等）]

オフィスアワーは設けないが、下記のメールアドレスで、随時質問等を受け付ける。

higuchi.hirokazu.2a@kyoto-u.ac.jp

なお、現地研修は採点報告日（８月中旬）以降に実施するため、成績報告が遅れる場合がある。

※本科目は、現地における大規模災害の発生や治安状況の急速な悪化、感染病等の急拡大によって不開講となる可能性がある。

[主要授業科目（学部・学科名）]